



一步踏み出した人の創業ストーリー

# このまちで、 はじめました。

いなべ市は、創業支援等事業計画を策定し、いなべ市商工会などと連携して、創業に向けた支援を行っています。しかし、創業はハードルが高く、自分には縁遠いものと考えている人も多いのではないでしょうか。そこで今月号では、実際に創業した人の体験談などを紹介します。



いなべ市商工会  
事務局長  
伊藤 章子さん

## 思いの実現をサポート

創業を考えている人は、「地域のために何かしたい」との思いが強いです。その創業に向けた思いの実現に、幅広い分野でお手伝いをしています。

創業に対して収入面での不安が大きい場合は、副業から始めるをお勧めします。3年くらい副業で取り掛かることで、その間に知識や自信を蓄えることができます。最終的に本業と副業の比重を逆転させていくといいのではないでしょ

うか。副業も立派な創業と言えます。

「いなべ市は創業をしやすい」との声を聞きます。まち全体に創業に理解があるのでは。創業者が増えると、まちが元気になっていきます。

創業を考えている人は、一度、気軽にいなべ市商工会へ相談に来てください。ここで相談やアドバイスを行い、必要に応じて専門家につなぐこともできます。ぜひ思っていることをお聞かせください。

## いなべ菓子店 八舎



宇野 尚之さん

高校卒業後、赤福に入社。赤福を退社後、会社員を経て、2021年に古民家で八舎を開店。今年、にぎわいの森に移転



## 「いなべと言えば八舎」を目指して

**創業のきっかけは?** 高校卒業後、株式会社「赤福」に入社し、入社と同時に社員として製菓学校に入校。赤福に匹敵する新商品開発プロジェクトの1期生として、開発に没頭する日々を送っていましたが、25歳で退職。

その後、全く違う業界で10年以上、サラリーマンとして働いていました。その間も、趣味で和菓子作りは続けていました。ある時、かりんとう饅頭を食べて「すごくおいしい!」と驚いて、家で試作を繰り返すように。それが今の八舎の商品につながっています。

結婚し、子育てる中で、人も優しく自然豊かないなべ市に惹かれるようになりました。2017年に家族でいなべ市に移住。年末に妻の実家へ帰省する際に、「いなべの手土産がない」とことに気が付きました。自分たちで名物を作りたいな、と思ったのが創業のきっかけです。いなべ市に来てなかったら、今の八舎は生まれていなかつたかも。

**創業の準備はどうしましたか?** 37歳のとき、副業として始めました。平日はサラリーマン、早朝や休日に庭の小屋で作ったかりんとう饅頭をマルシェで販売するという生活を2年半し

ていました。でも、コロナでイベントの急な中止が相次ぐ事態に。「ロスをどうしよう」と悩む中、店舗の開業を考えるように。そんな中、古民家物件との出会いが重なって、2021年に脱サラして「八舎」をオープンしました。

**創業時の心境は?** 2年半の副業の期間があったので、大きな不安は無かったです。伝統と洋の要素を融合させた新商品「どら焼き」が試作の末に生まれたことで、自信を持ってオープンを迎えることができました。

古民家の店舗では、真夏の厨房は45度を超えることもあります。小さな設備での製造に苦労していました。にぎわいの森に出店の一般募集がかかるこを知り、応募を決意。移転に必要な資料は、いなべ市商工会の担当の人と一緒に作りました。資料作成では、八舎の魅力や将来像と一緒に整理したことで、今後の経営の方向性が明確になりました。

**今度の展望は?** 和菓子は生活必需品ではないけど、心を満たす特別な存在だと思います。地域に愛される和菓子屋を続け、「いなべと言えば八舎」と言われるような存在を目指しています。

- 来店者から「おいしいと聞いて来ました」などの声をもらうとうれしいと話す宇野さん
- 今年8月に移転した店舗
- こだわりのあんこが詰まったどら焼き
- 創業時から夫婦二人三脚で歩んできた

### いなべ菓子店 八舎

● 9:00~18:00  
休 火・水曜日  
北勢町阿下喜31  
050-8888-1433



今月号の読者アンケートのプレゼントは八舎名物の「かりんとう饅頭」です。



応募方法はP13へ

# 小さな一歩から、夢を形に。

MAHALO MUFFIN



水谷 早百合さん

料理好きが高じて創作料理家に。市内で保育士として勤務した後、2022年にマフィン屋を開業

福祉タクシーきりん



小坂 和則さん より子さん

鉄道会社などで勤務した和則さんと、20年間、福祉施設で勤務したより子さん。定年退職後に高齢者や障がいのある人などの移動を支援する福祉タクシーを2022年に開業

シフォンエイト



中村 美紀さん

幼少期からお菓子作りが趣味。給食センターで調理員として勤務した後、自宅の車庫を改装して2022年に開業

## 今の働き方が楽しい

**創業のきっかけは？** 若いころから創作料理が趣味で、仕事の傍ら料理コンテストに応募していました。次第に「雇われるより、自分でやってみたい」と思うようになりました。カフェのオーナーも経験。結婚を機に、いなべ市に来てからは、市内で保育士として働いていました。子どもたちの成長を見るうちに、「自分も取り残されないように何かチャレンジしたい」と、創業の思いが強くなっていました。市内にマフィン屋が無いことに気付き、各地を巡って味を研究し、酵母を使ったしっとり食感のレシピを生み出しました。創業を決めてから1年半後の55歳のときに、自宅の一室を使ってお店をオープン。自分の資金で始めたかったので、できるだけ低コストになるように工夫しました。

**創業時に困ったことは？** 一番ネックだったのが会計でした。いなべ市商工会で、申告のやり方を教えてもらえて心強かったです。

**創業時・現在の心境は？** 初当は、「お客様が来てくれるか」「リピートしてもらえるか」と不安でした。でも、常連さんが増えるにつれ、不安が消えてきました。私のモットーは「やらずに後悔より、やって後悔」。今も不安はありますが、お客様や仲間との出会いがあり、みんなから元気をもらえる今の働き方は楽しいです。



MAHALO MUFFIN

営 現在は出店がメイン

出店情報はこちら▶

大安町平塚 1004-5

## 何歳からでも遅くない

**創業のきっかけは？** 和則さん：夫婦共に定年退職を迎えた先、何かしたいな、と思っていました。やるなら、人の役に立てるような仕事にしたいと考えていた時に、近所に福祉タクシーをしている人がいて、話を聞くうちに創業を思い描くようになりました。より子さん：定年が近づいたとき、「定年で仕事を終わるのはもったいない」「まだまだいける！」との思いを持つようになりました。

**創業の準備はどうしましたか？** 和則さん：創業までに二種免許や介護職員初任者研修を取得して、車両の準備などをしました。より子さん：私は定年退職後に、いなべ市商工会の「いなべ創業塾」

に入り、経営を学びました。塾では、自分たちの強みなどを整理できました。準備で一番苦戦したのは、各種申請書の作成です。本当に用語が難しくて…。すぐにいなべ市商工会に分からぬ点を相談したり、専門家を紹介してもらったりと助けてもらいました。

**創業時・現在の心境は？** より子さん：まだまだ福祉タクシーの認知度が低いと実感しました。車椅子のまま乗車できることや、買い物や外出などにも使ってもらえることを周知していきたいです。

和則さん：やりたいと思ったら、何歳からでも遅くないと思います。生きがいにもなり、本当にやって良かったと思います。



福祉タクシーきりん

休 日曜日(要相談)

大安町石榑北山 14-1

070-1612-0168

## 創業して「感謝」を強く意識

**創業のきっかけは？** 第一子がまだ幼くて子育てが大変だった時、知人に手作りの米粉のシフォンケーキをもらって食べた時の衝撃が忘れられなかったんです。米粉のフワッとした食感と、手作りの優しさが、すごく心に染み入りました。シフォンケーキを通して、私も誰かの心をフッと軽くしたり、笑顔を広げられたら、と思って創業を決めました。店名の「シフォンエイト」には、小さな幸せが末広がりに広まってほしいとの思いを込めました。

**創業の準備はどうしましたか？** 家族や知人に、本当に協力してもらいました。知らないことが多かった私が創業できたのは、周

りの人のおかげです。創業して、多くの出会いがあり人生の宝物となりました。創業してからも、SNSを活用した集客に苦手意識があったんですが、いなべ市商工会の事業者向けの「スマホ写真講座」を受講して、参考になることがたくさんありました。

**子育てしながらの創業への思いは？** 子どもたちに働く姿を見せて、自分の未来を作る楽しさ、家族や支えてくれる人への感謝、頑張ることへの意味を伝えたいです。子どもたちが少しずつ成長していくように、私自身も「少しづつ前に進んでいる」と実感することが、働くことの原動力となっています。



シフォンエイト

営 木・土曜日(不定休)

10:00~16:00

藤原町西野尻 586

# チャレンジできるまち

## いなべ市商工会の取り組み



いなべ市商工会  
経営指導員  
原田 匠さん

身近な「何でも相談できる存在」です

地域の「ご用聞き」のように、困ったときに何でも相談できる存在として、創業者を支援しています。

事業の目標や達成への計画などをまとめた「事業計画書」は、資金調達の際に必要です。創業希望者には、事業計画を作るための聞き取りをしたり、既に作っている人に対してはアドバイスをしたりします。まずは、気軽に相談に来てください。

### いなべ市商工会の 創業時の支援

- ・創業支援窓口
- ・専門家派遣制度
- ・創業塾（特定創業支援事業）
- ・融資支援

いなべ市商工会  
北勢町阿下喜 1991  
72-3131 (平日8:30~17:15)

### Q&A

創業前にどんな準備をしておくべき？

まずは、自分のやりたいことや強みをしっかりと固めることが大事です。弱みが強みになるので、自分の経験を見直してみては。実際の相談の中では、お金の相談が一番多いので、必要経費を洗い出しておきましょう。周辺の競合店を調べるなど、地域をよく知ることも大事です。

融資や補助金はありますか？

小規模事業者経営改善資金や小規模事業者持続化補助金などがありますが、それぞれ申請に条件があるので、まずはいなべ市商工会に相談してください。また、審査に時間がかかる補助金や、自己資金が必要な融資もあるので、資金計画はゆとりを持って立てましょう。

軌道に乗るのか不安…。  
誰に相談すればいい？

いなべ市商工会では、各町に担当者がおり、地域密着型で相談に対応しています。専門的な相談には、専門家派遣制度もあるので、安心してください。また、「いなべ創業塾」を受講すると、創業を目指す同じ志をもった仲間と出会うことができ、横つながりを作れます。

## いなべ創業塾

創業の進め方を実践的に学ぶために、いなべ市商工会が毎年11月ごろに開催している講座です。

今年度は、11月1日（土）に修了式が行われ、最終日には塾生がビジネスプランを発表しました。



塾生のコメント  
不安がなくなりました

経営などを学びたくて創業塾に参加しました。畠違いの仕事への挑戦に不安でした。講師の人に分かりやすく教えてもらえたので、自分のビジネスプランを完成させることができ、不安がなくなっていました。



二之湯 大晃さん

来年の秋～冬に  
讃岐うどん屋を開店予定です！

このまちには、新しいチャレンジを応援する人と仕組みがあります。

創業に向けての一歩を踏み出すことを支援する、市や商工会の取り組みを紹介します。

## いなべ市の取り組み

### 趣味や特技を生かした出店の場

にぎわいの森では、土日および祝日に手作りの雑貨、ワークショップ、地域の素材を生かした飲食物などの出店者が並ぶ「weekendMARKET」を開催しています。

この「weekendMARKET」は、市民や市内の事業者が活躍できる場と、まちづくりに気軽に参加してもらえる機会の創出のために始まったもので、随時、出店者を募集しています。

ここで対面販売を経験し、創業のイメージを膨らませることもできます！  
出店要綱はこちらをご覧ください▶



weekendMARKET  
・ 土・日曜日、祝日  
・ 10:00~16:00  
・ にぎわいの森  
・ グリーンクリエイティブいなべ 72-7705

### SDGs の観点をビジネスに取り入れる

「SDGs 未来都市」に選ばれている、いなべ市。SDGs 推進のため、事業者向けのセミナーを毎年開催しています。

11月10日（月）、いなべ市役所で「SDGs プラッシュアップセミナー」を開催し、16人が参加しました。手元にある資源を使い、SDGs がかなう新事業を創造・拡大するゲームを体験。体験後、参加者からは「積極的な行動が大切だと気付けた」「社会課題から新規事業を考える視点を得ることができた」との声が上がっていました。

商工観光課 86-7833



このまちから、一歩を一。

「創業」、その一歩の裏側には、挑戦する人と支える人の物語が詰まっています。  
創業のきっかけは、誰にでも訪れるかもしれません。あなたの「一歩」も、このまちから始めてみませんか。